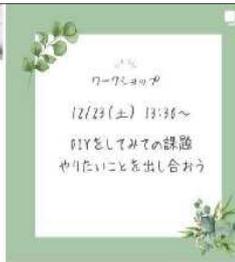


## 令和5年度「かごしま地域活性化協働推進事業」実施結果

(事業名) 空き家を活用した商店街のにぎわいづくり創出事業

実施主体

(団体名) 鹿屋本町一番商店街振興組合  
(担当課名) 住宅政策室



### 今後の展開

実際に活用してみたいと思う人を募り、  
アイデア出しのワークショップを行いたい



### 背景

鹿屋市では、第2次鹿屋市空家等対策計画において、「空家等の利活用促進」を基本方針の1つとし、街のにぎわい創出を目指している。

鹿屋市には約3,300件の空き家があり、そのうち、約30%にあたる960件程度が利活用可能とされている。

鹿屋市本町一番商店街内にある岩元邸もその1つであり、本邸宅はバスセンターの近隣に位置するアクセスの良さから市民が集う場所として活用を希望する声が地域から挙げられている。

### 地域課題

鹿屋本町一番商店街内には、岩元邸を含め、複数の空き家があることから、これらを活用することで中心市街地への人流増加が期待でき、街のにぎわい創出に貢献すると考えられる。

近隣には鹿屋市市民交流センター(リナシティ)があるが、日常的な利用がなされておらず、市民が交流する場所にはなっていない。

空き家の活用にあたっては、空き家を地域課題として啓発するため、老若男女、多様な層からの提案を受けるワークショップを開催し、にぎわいの場としての取組を実施する。

## 事業のねらい

交流の場、にぎわいの場の創出に向けたワークショップを開催し、こんなことができたらいいなといった提案を持ち寄り、対話を重ねることで、多様な市民が関わることが想定される。また、その後の利用についても、にぎわいや交流の場として集うことが期待される。

さらに、他地域からの移住者や移住を検討している者にとっても、地域住民の交流の場やにぎわいの創出により、住みやすい街と感じてもらえるきっかけ作りになるのではないかとと思われる。

## 事業概要

### 1 ワークショップの開催

地域における課題や、空き家の活用策を検討するため、多様な層からの提案を持ち寄り、にぎわいの場づくりを進める。

### 2 地域の空き家の把握

地域にある活用可能な空き家を把握し、ワークショップにおける空き家活用策の提案を基にした地域活性化へとつなげる。

### 3 事業計画の作成

ワークショップの開催により提案された空き家活用策について、商店街のにぎわいづくりに向けた事業計画やスケジュールの確認などアイデア出しを行う。



## 成果

### 1 ワークショップの開催

ワークショップの開催により、空き家活用に係る現状と課題、空き家活用策のイメージ等を共有し、方向性の確認を行った。

また、講師を招いた事例講話やDIYワークショップの開催等により、地域住民への意識啓発にもつながった。

### 2 地域の空き家の把握

地域にある活用可能な空き家を把握し、建物所有者に対し、今後の利用予定等に係るアンケートを実施した。(継続調査中)

### 3 事業計画の作成

ワークショップの開催により提案された空き家活用策について、事業を実施するにあたって必要となる体制整備等の検討を含めた事業計画の作成を行った。



## 協働の状況

- 鹿屋本町一番商店街振興組合：（事業実施主体）
- （公社）鹿児島県建築士会鹿屋・肝属支部：（空き家の現況調査や図面作成）
- 県住宅政策室，大隅地域振興局，鹿屋市：（事業実施及び次年度以降の事業計画，補助制度等の助言）

## 今後の取組

- 商店街のにぎわいづくりに向けた，地域における継続的な空き家の利活用のため，管理等を行う体制整備が必要になることから，補助制度等の活用も視野に入れた検討を行う。
- 活用希望者の募集等により，実際に空き家を利用した活動を展開する。



## 協働事業の感想

### 団体からの声

鹿児島県の中でも文化財級の立派な古民家が商店街の中にあり、この古民家を地域の宝として、利活用することで、地域活性化と商店街のにぎわいにつなげることができる実感を持つことができた。

補助制度等の活用も視野に入れた検討を行いつつ、利活用希望者を募集し、地域活性化につなげたい。

### 担当課からの声

空き家の活用については、地域のニーズを踏まえた取組が実施されると、地域活性化に大きく寄与するため、引き続き、地域住民を含めたにぎわいづくりに取り組んでいただき、その取組については、県内各地へ普及啓発したい。